

# 事業・研修計画書

東広島市志和生涯学習センター 橋本靖子

平成 27 年度生涯学習振興・社会教育関係職員等研修  
【施策立案研修】演習シート

## 1 事業・研修名

サロン、地域活動で使える「ネタ」がいっぱい！！「欲張り講座」

## 2 対象者と目指したい姿（どのような方を対象として、どのような人材育成を目指すのかを記入する。）

〈対象〉

地域団体の世話係、福祉施設職員、ボランティアに関心がある人。

〈目指す人材育成〉

楽しく かつ 中身が充実した集会在企画でき、実践力を兼ね備えた地域リーダーを育成する。

## 3 取組の趣旨・ねらい（地域の現状、人材育成をめぐる地域や職場の現状等を踏まえて記入する。）

東広島市志和町および周辺地域は農村地帯で高齢化率は年々上昇している。

本講座の事前に実施したアンケートの結果によると、①介護施設職員や地域ボランティアに携わっている人たちは、地域活動で使えるレクリエーションなどを学習する機会がない。②敬老会や地域の集会などにおける行事の企画、展開方法について日々悩んでいる。③前年度と同じ内容で済ませることが多い ④世話係（いわゆる役員）は長年、同じ長者が務めているか、もしくは順番制である。⑤行事などのマンネリ化を打破したいという願いを持っている・・・ということが分かった。本講座は、この結果を踏まえ、受講者の願いとニーズに対応すべく、「集会を盛り上げるための知識」や「スキル」をふんだんに盛り込んで展開し、地域活動推進に より積極的に参加していく人材を育成することを目指す。加えて、地域活動に参加することによって、受講者自身の元気と生きがいにつなげていく。

定員 30 名

年齢不問

## 4 取組の概要

### 広報活動

- ・東広島市広報、東広島市市民活動情報サイトに掲載。
- ・センターだより「すばる」を志和町 2100 世帯へ配布。  
(配布手段 町内の新聞店に、折り込みを依頼)
- ・地域センター、コミュニティハウス、およびスーパーにチラシを置く。
- ・関係機関にチラシを持参して趣旨を伝え、PRを依頼。

### ◇学習形態

- ・「受け身」でなく「参加型」を取り入れ、資料の文字は大きく、理論については分かりやすく図示するなど、高齢者に配慮する。
- ・4回の連続講座にしているが、勤務などの都合で「全回参加可能」という人は少ない。そのため、  
①1回ずつの積み上げ学習ではなく、1回の講座に出来るだけ多くのジャンルを盛り込む。  
②必ず復習する時間を設ける。 ③講座で紹介した歌謡体操のCDやカセットテープ、  
振付をコピーして、希望者には貸し出しを行うなどの工夫をする。
- ・受講者の要望に応え、2回追加講座として応用講座を行う。

◇出張講座、講師の紹介

- 今回の講座に参加出来なかった人、もっと学習を深めたい人たちのために「出張講座」「講師の紹介」を行う。

5 実施・評価計画

日程 (回数・月日・時間)	目標	内容	評価項目	備考 (留意点・準備物・連携先)
6/10(水) 13:30~ 15:30	○理論と実践を体験し、楽しさを実感する。 ○企画のコツを伝える。	「ネタいろいろ体験」と題して、歌謡体操レクリエーション、手品などの理論と実践を展開する。 具体的には 歌謡体操、レクリエーション ～身近なものを使った手品～ ① ロープからの脱出 ② カードから出てくるお金	初対面である30名の受講者が集う中、打ち解けることができたか。 企画のコツを十分に伝えることができたか。	全回共通 〈留意点〉 ・スタッフの役割分担表を作成し、それぞれが自分の動き方を把握しておく。 ・受講者の特性を踏まえ、開催日には電話連絡をするなど配慮を行う。 ・時間を有効に使うため休憩時間を設けない。 口頭で伝えておく。 ・受講者の年齢・健康状態を考えながら進めていく。
6/17(水) 13:30~ 15:30	○実践力を身につける。	「行事の企画、演出の裏ワザ」と題して指ピクス、笑いヨガ道具を使ったゲーム 簡単工作 ① 超カンタンリース ② ヒンメリ	一人ひとりの受講者が学習内容に興味を持ち、いきいきと取り組んでいたか。	・常に参加者の興味の度合いを見ながら進行方法や内容を変えていく。 ・説明や理論を具体化するため図示する。 ・終了後アンケートを取り、受講者の感想、反応を把握する。
6/24(水) 13:30~ 15:30	○学んだことを現場で生かす実践力を身につける。	「レクの体操、会合の演出レク」と題してクイズ、ゲームの展開体験コーナー ～身近なもので楽しむ手品～ ① テッシュがうどん ② 輪ゴムの移動	一人ひとりの受講者が学習内容に興味を持ち、積極的、かつ意欲的に取り組んでいたか。	〈準備物〉 全回共通 ・開催2週間前 受講決定通知を発送 ・開催1週間前に資料を完成させる。 ・名簿や名前の表記に間違いがないか確認しておく。
7/1(水) 13:30~ 15:30	○学んだことを自分のものとして、生かしていこうとする意欲を育てる。	効果満点「おなじみ君」と題して人形の効果を道具を使わないゲーム ミュージックケア	学んだことを現場へ持ち帰り、生かしているか。	・音楽をかけ雰囲気や和らげる。 ・次回の内容を掲示し、参

				<p>加の可否を確認しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 材料費の必要な回では集金する。</li> <li>• その日に使うものを準備しておく。</li> </ul>
追加講座	目標	内容	評価項目	
7/15(水) 13:30~ 15:30	○前4回の講座の学習内容を整理し、応用力と実践力へと繋げていく。	「特別な日に使える、極上の出し物」と題して 歌謡体操 クイズ、ゲームの応用 簡単工作 「モバイル」	応用を理解し、学んだことを生かしているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前に施設見学に行き、地域支援者、ケアマネジャーとの打ち合わせをしておく。</li> </ul>
7/29(水) 13:30~ 15:30	○学んだことを生かし、応用できる実践力を育てる。 ○関係機関の窓口を紹介し、活動の拡がりへとつなげる。	「あっと驚く、出し物のコツ」と題して 演出の裏ワザ、 タネが絶対に分からない手品	応用力を身につけ、学んだことを現場で生かしているか。 参加者同士で気づきを話し合っているか。	
実習研修	目標	内容	評価項目	
9/21(月)	○学んだことを生かし、応用できる実践力を身につける。	地域在住の高齢者を対象とした行事に出向き、歌謡体操、ゲーム、手品など、講座で学んだことを実演する。	参加者同士で気づきを話しあっているか。 話し合いの中で、自らの課題を見つけることができたか。	
9/27(日)	○学んだことを生かし、応用できる実践力を身につける。	高齢者施設に出向き、利用者の健康状態に応じた歌謡体操、ゲーム、手品など講座で学んだことを実演する。	気づきをもとに、今後に生かしていこうとする意欲が高まっているか。	
応用講座	目標	内容	評価項目	
11/5(木)	○学習者への呼びかけを市全体に広げ、応用できる実践力を身につける。	高齢者を対象とした行事を企画、演出する方法を紹介する。 具体例として、「歌謡体操」「指ピクス」「手品」などを、実体験しながら学びを深める。	初めての受講者（以下 初受講者という）は学習内容に興味を持ち積極的、かつ、意欲的に取り組んでいるか。 すでに開催した6/10～7/29までの講座受講者（以下 既受講者という）は学習の振り返り、情報の	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今回の初受講者と既受講者が同時に参加するため、内容の再検討をする。</li> </ul>

			共有、情報交換ができてい るか。 参加者同士の交流が活発に なされているか。	
--	--	--	---	--

## 6 評価に係る項目

(計画を実施することによって見込まれることを、できるだけ具体的に記載する。)

- 受講者間の交流
 

職場、地域活動における悩みや葛藤していることを出し合い、共感し合う  
行事その他についての情報を交換、共有する。
- 受講者のスキルアップ
 

レクリエーションや工作、手品など、学んだことを職場や地域に持ち帰って実践すること  
により、受講者自身の力量が高まり意欲や自信につながる。
- 活動の拡がり
 

引き出しの中身（いわゆる持ちネタ）が増えたことにより、介護現場の日常レクや地域行  
事などの充実が図られ、参加者の満足度が増す。また、手品の道具や演劇の衣装、BGM  
の貸し出しを行うことで、受講者の活動のバリエーションが広がる。
- 受講者自身の生きがい、達成感、意欲の高揚
 

充実した行事を企画、展開することにより、リーダーは達成感を味わうことが出来る。  
このことが自身の生きがいや意欲の高揚につながる。
- 学習の成果を発表
  - 受講者は、それぞれの職場、サロンなどで実践している。
  - 平成27年9月、本講座の受講者（希望者）が、発表できる場を設定する。  
地域の高齢者の行事、高齢者施設に出向く。
  - 毎年3月、「センターまつり」と題して年度末に学習成果を発表する機会を設定  
している。自主サークルのメンバーと主催講座の受講者が展示、舞台発表を行う  
行事である。  
受講者（希望者）が出演する機会を設け、自信につなげるとともに観客への周知  
を図る。
- 他団体との連携
 

講師との情報交換をとおして、他団体や新たな講師発掘を行う。
- 出張講座
 

本講座に参加出来なかった人たちのために、他地域に出向い同様の内容で講座を  
開催する。または、職場や地域からの依頼を受けて出張講座を開催する。  
このことにより、受講者が増え地域のリーダー育成の基盤作りが出来る。

## 7 実施組織体制

〈連携した機関〉

- 行政・・・生涯学習課、生涯学習ボランティアグループ登録団体、  
地域政策課、子ども家庭課、健康増進課
- 関係機関・・・東広島市社会福祉協議会
- 関連施設・・・地域の高齢者支援施設
- ボランティア活動支援センター

## 8 実施スケジュール

平成27年度

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 地域の実態を調査し、 課題を整理する。											平成26年度 →	
② 講座を企画し、講師の 検討	→											
③ 講師依頼、決定	→											
④ 資料作成		→										
⑤ 参加者募集 チラシ配布 センターだより配布 市民活動情報サイト 及び広報掲載		→										
⑥ 事前アンケート (講座の初日に実施)			→									
⑦ フリーペーパー 「プレスネット」 ケーブルテレビと 連携			→									
⑧ CD、テープダビング 振付の作成		作成	貸出開始									
⑨ 講座の開催			→	→	→	→	→	→				

※枠の大きさや矢印は、必要に応じ変更してください。

※単年度にとどまらず、複数年の計画としても構いません。